

ビューイックとグレイアム

- 1 老グレイアムはカーライルの町にゆき
サー・ロバート・ビューイックに会いました
鎧兜に身を固め ワインを飲むうち
酔って愉快になりました
- 2 老グレイアムはグラスを挙げて言いました
「ビューイックよ おまえに乾杯
家で待つわしらの息子たちにも乾杯だ
ふたりはこの国の宝物」
- 3 「おまえの息子がわしの息子くらいりっぱなら
せめて 本を読む頭があつたなら
剣と盾とを肌身離さず
自分の身を護るくらいの腕前だったら
- 4 「どこにゆこうと
ふたりは勇ましい戦友で通つたものを
りっぱな兄弟と讃えられ
ボーダーで縦横無尽に戦つたものを
- 5 「おまえの息子は青二才のドラ息子
わしの息子と兄弟の契りなどもつてのほか
わしの息子は読み書き堪能
おまえの息子は足元にも及ぶまい」
- 6 「学校に入れてやっても勉強は好きにはなれず
本を買つても読む気も起こさず
せめて 自分でちゃんと身が護れるか
ビューイックとの勝敗を見届けたいもの」
- 7 老グレイアムは勘定を払おうと
「払いはいくら」と聞きました
上等のワインと馬草の払いは
一クラウンもの大金でした
- 8 老グレイアムが馬屋にゆくと
三十三頭の馬がいました
自分の愛馬を引き出して
ぶらぶら家に帰りました
- 9 家に帰って目にしたものは
見るも愛いとしいものたちでした
三人の自慢の息子たち

お気に入りは若きクリステイ・グレイアム

10 三人の自慢の息子たち

お気に入りはクリステイ・グレイアム

「お父さん ぼくに何にも言わないで

一日中どちらにおでかけですか」

11 「カーライルの町で

サー・ロバート・ビューイックに会ってきた

おまえを青二才のドラ息子だとぬかしやがった

わしの面目丸潰れ

12 「おまえを青二才のドラ息子だと

やつのお息子は読み書き堪能

やつの息子は読み書き堪能

確かに おまえは足元にも及ぶまい

13 「学校に入れてやったが勉強は好きにはなれず

本も買ったが読む気も起こさん

せめて 自分でちゃんと身が護れるか

ビューイックとの勝敗を見届けたいもの」

14 「ああ お父さん それだけのご勘弁

それだけはできません

身体からだをはって

親友と戦うことなどできません」

15 「何を言う ろくでなし

わしに向かってよくも言えたな

売られた喧嘩をおまえに買う気がないのなら

手袋にかけて わしと闘え」

16 クリステイは額が地面に触れるほど

身を低くして言いました

「ああ お父さん どうか手袋をはめてください

風で飛ばされてしまいました」

17 「何を言う ろくでなし

わしに向かってよくも言えたな

売られた喧嘩をおまえに買う気がないのなら

この手にかけて わしと闘え」

18 クリステイは部屋に戻って
じつくりと考えました
愛する父親と闘うか
親友と闘うか

19 「友を殺すが運命さだめとしても
人は噂するだろう
行った町の先々で
あれが親友殺しの男だと

20 「親友を殺すなど
ひどい罪は冒せない
でも 愛する父を殺しては
天の恵みは受けられまい

21 「ああ お父さん お願いします
ぼくの勝利を祈ってください
友を殺すが運命さだめなら
二度と生きては帰りません」

22 背中には上等の板金鎧いたがねよろいを着け
頭には兜をかぶり
腰には剣と盾を下げ
ああ クリステイに不似合いな出立ちでした

23 「お父さん さようなら
カーライルの町よ さようなら
友を殺すが運命さだめなら
二度と生きては帰りません」

24 さて クリステイの話は置いていて
また後に語りましょう
今度は賢いビューイックのことを
弟子が五人の彼のことを語りましょう

25 ビューイックは弟子たちに
みっちり剣を仕込んだ後で
自分の剣を小脇に抱え
父親の庭を歩いていました

26 あたりの領地に

変わりはないか見張っていました
そこへ 鎧の男がひとり
草原を超えて向かって来ます

27

「誰が来るかと思ったら
誰がこちらへ向かって来るかと思ったら
ぼくの親友
兄弟グレイアムではないか

28

「よく来てくれた グレイアムよ
愛しいグレイアム よく来てくれた
おまえこそぼくの親友
キリスト教国で一番の友」

29

「やめてくれ 兄弟ビューイック
兄弟扱いはやめてくれ
思ってもみなかった日がやってきた
兄弟よ おまえと戦うためにぼくは来た」

30

「なんてことだ 兄弟グレイアム
そんなことを言うなんて
ぼくは師 おまえは弟子の間柄
おまえにはたくさん仕込んでやった」

31

「親父がカーライルの町で
おまえの親父老ビューイックと会ったという
ぼくのことを青二才のドラ息子と馬鹿にした
ぼくの面目丸潰れ」

32

「やめてくれ 兄弟グレイアム
そんな話はやめてくれ
両方から三人の立会人を連れてきて
親父同士を仲直りさせよう」

33

「やめてくれ 兄弟ビューイック
兄弟扱いはこれまでだ
ぼくが信じたとおりの男なら
この堀を飛び越えて かかってこい」

34

「なんてことだ 兄弟グレイアム
そんなことを言うなんて

身体からだをはって

親友と闘うことなどできはしない」

35 「やめてくれ 兄弟ビューイック

心遣いはこれまでだ

ぼくが信じたとおりの男なら

この堀を飛び越えて かかってこい」

36 「グレイアムよ おまえを殺すが運命さだめなら

それは神さまの思し召し

グレイアムよ おまえを殺すが運命さだめなら

二度と家には帰るまい」

37 「兄弟ビューイック 心の友よ

おまえとは兄弟の契りを交わした仲

ぼくが信じたとおりの男なら

この堀を飛び越えて かかってこい」

38 肩からマントを放り投げ

手から聖書を放りだし

生垣に手をかけて

ビューイックは堀を飛び越えました

39 グレイアムは親友が向かって来るのを見たときに

目から涙が溢れました

「身体からだをはって ぼくと闘うつもりなら

いかにもおまえはりっぱな男

40 「ぼくの背中に鎧はあるが

おまえの背中にそれはない

おまえの背中にないのだから

ぼくの背中にあってはならぬ」

41 背中から鎧を脱ぎ捨てて

頭から兜を放り投げ

馬は木に繋いで

グレイアムは剣をしつかり握りました

42 ビューイックとグレイアムは剣を取り

二時間あまり闘いました

ふたりとも汗だくになりながら

でも 血の一滴も流しません

43

グレイアムはビューイックに
返し手の一撃を浴びせて
ビューイックの左の胸を打ちました
ビューイックは死んだようにくずおれました

44

「起きろ 兄弟ビューイックよ
起きてひとこと言ってくれ
致命傷となるのかどうか
神と医者が命を救えるかどうか言ってくれ」

45

「馬に乗れ 兄弟グレイアム
ぼくから急いで離れてくれ
切れ味鋭いおまえの剣は ぼくの心臓に命中だ
もう一步も追ってはゆけまい」

46

「馬に乗れ 兄弟グレイアム
ぼくから急いで離れてくれ
この国から逃れるんだ
誰がやったかわからぬように」

47

「ああ 友よ
おまえの言葉が本当ならば
誓って 死ぬのはぼくが先
必ずや ぼくが先に死ぬだろう」

48

グレイアムは剣を塚に立て
三十三歩 塚から離れ
神に祈りを捧げたあとで
剣先めがけて身を投げました

49

先に死んだのはグレイアムでした
そこにビューイックの父親がやって来ました
「息子よ 起きろ
おまえが闘いに勝ったのだ」

50

「息子よ 起きろ
おまえが闘いに勝ったのだ」
「お父さん 家で酒でも飲んでください
ぼくと友をここにそつとしておいて

51

「深くて広い墓を掘り

そこにふたりを埋めてください
でも グレイアムを陽の当たるほうに
彼が闘いに勝ったのだから」

52

ふたりが眠るカーライルの町の
親友の物語はこれでおしまい
悲しみにくれる
ふたりの老人のことを語りましょう

53

老ビューイックが言いました
「ああ 友よ わしのせいで
最愛の息子を亡くしてしまった
家名を継ぐべき息子だった」

54

老グレイアムが言いました
「ああ 友よ こちらの損はもつと甚大
慰めと喜びを亡くしてしまった
大切な家の宝を亡くしてしまった

55

「四十頭の馬を追いながら
ラダーデイルを通るとき
クリステイが後に付いてくれたなら
わしをりっぱに護ってくれたらろうに」

56

物語はこれでおしまい
でも 二言三言ふたことみこと加えましょう
カーライルの町で流れた噂
悪いのはふたりの頑固じじい

(中島久代訳)